

一二五五番

月草つきくさに 衣ころもそ染そむる 君きみがため 斑まだらの衣ころも 摺すら
むと思おもひて

一二五六番

春霞はるかすみ 井いの上へゆ直ただに 道みちはあれど 君きみに逢あはむ
と たもとほり来くも

一二五七番

道みちの辺への 草深くさぶかゆり百合ゆりの 花笑はなゑみに 笑ゑみしがから
に 妻つまと言いふべしや

一二五八番

黙もだあらしと 言ことのなぐさに 言いふことを 聞きき知し
れらくは 悪あしくはありけり